



レスキュー隊の服は、なぜオレンジなの

相手にわかりやすい色だから

あなたは、火事や事故現場で、オレンジ色の服を着た消防隊員を見たことがあるでしょう。このオレンジ色の服を着た隊員は、救助活動を専門にする、救助隊員です。この隊を、レスキュー隊といいます。レスキューとは、英語で、rescue と書き、「(危険などから) 救う」とか「救助、救出」という意味です。

レスキュー隊の服は、オレンジ色ですね。このオレンジ色は、人を助けるという意味をもっており、さらに、危険な救助作業をするときに、相手にわかりやすい色である、ということで、この色が選ばれているのです。

日本各地の消防署で、独自の色を使うことができますが、今では、どの県でも同じオレンジ色を使っています。

消防のための服装は、国が決めた規則があり、どの地域の消防隊も、この規則にそってつくられた消防服を着ているのです。

レスキュー隊の救助工作車

レスキュー隊は、救助工作車に乗って、出動します。この車には、救助に必要なロープ、空気呼吸器、エンジンカッター、画像探索機(危険な場所、見にくい場所などのようすを映し出す機械)などの資材や機材を積んで、火事や事故の現場で活やくしています。

レスキュー隊の隊員は、「何があってもわたしたちが助けるぞ」と思い、「災害が1件もないように」と願いながら、活動しているのです。(監修・青木 国夫)

